

サービスから看護、介護サービスへのシームレスな移行をはかることで地域全体の介護保険サービス水準が向上されることが期待される。

ま と め

維持期における仮の要介護状態について概説し、その要因としての筋力低下、体力低下の重要性を述べた。仮の要介護状態は見逃されている廃用症候群そのものでもあり、また廃用症候群をもたらすきっかけでもある。要介護状態に対する二次予防（早期発見、介入）の推進へ向け、地域における専門的リハサービス供給体制の問題点を挙げるとともに、その解決に向けて、我々が推進しているモデル事業を紹介した。維持期におけるリハ介入効果の実証と専門的リハの位置づけの明確化、ならびに限られたサービス資源の効率的運用が求められている。

文 献

- 1) 山田 深, 里宇明元: 脳卒中維持期の場合. リハ医学 2003; 10: 672-677
- 2) 厚生労働省統計表データベースシステム. 厚生統計要覧; Available from: URL: <http://www.dbtk.mhlw.go.jp/toukei/kouhyo/indexk-kousei.html> (2005年6月1日引用)
- 3) 千野直一: 厚生科学研究「脳卒中による機能障害及び能力障害の治療および訓練に関する研究—維持期におけるリハビリテーション医療とその効果—」平成15年度報告書 2004; 8-15
- 4) 里宇明元: 厚生科学研究「在宅要介護者に対するリハビリテーション医療介入—要介護状態が改善可能なケースの効率的スクリーニングと効果的介入のためのモデルシステム構築に関する研究—」平成16年度報告書 2005; 39-60